

授業科目の概要

(建築学研究科建築学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容 (2023年度)	備考
芸術科目	インテリアデザイン特論	居住空間の主要なインテリア・エレメントである家具は、人間の身体を支えて活動を支援する、空間を仕切る、演出するなどの機能を持つ。 本科目では、インテリアエレメントの中でも、人の身体に直接触れて使用する椅子を中心に、家具の歴史的な変遷、家具の種類と性能、家具の企画・エスキス・設計・製作に至るデザインプロセスについて学ぶ。	
	工芸とデザイン	ジョン・ラスキン [1819-1900] による1849年の著書『セブン・ランプス・オブ・アーキテクチャー』は、建築にとどまらないデザイン一般の原理を提唱した理論書であり、さまざまな毀誉褒貶をくぐり抜けながら今日まで読み継がれてきた。この、初版から170年あまりを経た古典に対して、特に近年、さまざまな言語での、翻訳出版の機運がもたげている。それは一体なぜだろう。私たちはいま、『セブン・ランプス』から何が学べるのか。 本講義では本書の原典にあたり、翻訳と調査を通じて、デザインの本质と現在形を問う。	
	美術工芸特論	日本の「近代」という時代を対象として、その過程のなかで形成されてきた「美術」「工芸」といった領域とその展開について検討する。	
	都市環境と芸術	我々が生活する都市は、ハードウェア面だけでなくソフトウェア面も含め、様々な要素によって構成されている。都市がいかんして今日の姿を形成するに至ったのかを読み解くことは、よりよい都市環境を実現する方法を探る上で不可欠である。 本講義では、都市デザインがなぜ生まれたのか、その歴史的変遷や展開、現代における都市デザインの役割などについて学び、都市をいかにデザインするか、その手法を提案するための基礎的な知識を身につけることをめざす。 講義では、事例を通じて都市デザインの目的、メカニズム、担い手、具体的デザイン手法を解説する。	
専門特論科目	伝統建築特論Ⅰ	伝統建築の様式を取り上げ、代表的な様式の変遷や工法、素材、意匠的特徴などに関する知識を習得する。建築史も歴史学の一環であるため、政治、経済、社会、文化などあらゆる分野と関連して考える必要があり、建築を様々な面（思想、価値観、社会制度、工法、材料、施工等）から捉えて、伝統建築における高度な理論の構築を目指す。	
	伝統建築特論Ⅱ	京町家や細街路（路地）の保全・継承・再生の意義を概説するとともに、京町家などの伝統的建築が残る生活空間の現代的再編・再生を目的としたまちづくり（コミュニティデザイン）に関する知識の習得と高度な理論の構築を目指す。授業時間内にフィールドワークおよび発表を行う。	
	建築計画特論Ⅰ	現代社会における多様なニーズに対応する建築計画における高度な知識と技術の修得を目的とする。伝統建築と現代建築の共存・融合を考慮して、各種建築物における計画・構造・設備の総合的観点および実践的観点から、建築計画および設計の可能性を探る。	
	建築計画特論Ⅱ	建築デザイン、地域社会、現代社会の把握、環境の快適性、建築の安全性、インテリアデザインなど、伝統建築と現代建築の共存・融合の視点から、これまで学習した建築計画の各専門領域の広がり相互の繋がりを理解し、より高度に空間構成をとらえる能力を養う。	
	建築設計特論Ⅰ	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半において課題解決型の設計プロセスから課題発見解決提案型の設計プロセスについて解説する。後半においては、今日の建築に大きな影響を及ぼした近現代の建築家の思想と建築作品を通じて、建築の設計理念や手法が社会的資産としてどのように展開しているかを概観する。（大学院所属の他の教員によるレクチャーも適宜想定）	
	建築設計特論Ⅱ	建築作品の創造という動機と現実の建築設計との関連性を探る。具体的には、前半は、建築設計の実務の流れに沿って基本計画、基本設計、実施設計等を具体的なプロジェクトをもとに解説する。後半は、いくつかの今日的な建築事例をとりあげ、そこに含まれる課題について考察を行う。（授業内での議論、見学、レポート提出も想定）	

授業科目の概要

(建築学研究科建築学専攻)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容(2023年度)	備考
専門 研究 科目	建築デザイン特別演習Ⅰ	建築の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザインカについて、より高度な知識とデザインカを養う。建築設計は基準法で集団規定と単体規定から規定されていることから分かるように、内発する思考だけではなく周辺環境における位置づけも明確にする必要がある。そうした観点も念頭に据えて建築の持つ創作的な視界について思考を深めていく。(本演習は大学院所属の全教員が各々課題を提示して選択する方式とする)	
	建築デザイン特別演習Ⅱ	都市・地域の課題を通して、設計条件分析や発想・概念のまとめ方、機能や空間の構成法、形態化、外部空間、地区、地域、都市空間へと延長した課題解決のためのデザインカについて、より高度な知識とデザインカを養う。(学内外で実際的な設計活動に携わる建築家教員(一級建築士)で、本専攻が相応しいと認めたもの最小1名を含み、複数教員による共同指導)	
	建築企画論	これからの「建築」は、社会の中で多くの人の多様なニーズに応えながらも、安全・安心、健康、利便、快適など、生活との関わりの中で社会システムとしていかに機能するかが問われている。社会システムは建築だけで構成されているわけではないが、これまでの「建築」の果たした文化と社会への影響、これからの社会動向を踏まえた人間と環境のあり方の提案など、「建築」に期待される社会との関わりについて多角的に理解し、その本質を追求する能力を養う。	
	西洋都市建築デザイン論	フランスを中心にヨーロッパの近代現代建築を例に取り、歴史的都市における新しい建築のあり方、都市の変遷と建築の関係性、都市基盤と建築との関係性などについて講義を行う。異なる時代の建築と都市について横断的に認識を深め、伝統建築と現代建築の共存・融合のデザイン、異なる時代の建築による都市デザインについて論じる。	
	インターンシップⅠ	1年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。	
	インターンシップⅡ	2年夏季に一定期間継続して学外の一級建築士事務所に出向き、設計業務の補佐をとおして、実務の一端を体得しながら、実践的なデザイン手法及びそのプロセスを学ぶ。なお、実習先は本専攻が相応しいと判断した一級建築士事務所に限る。ただし、インターンシップⅠを履修した場合、異なる実習先を選択する。	
	建築学特別研究Ⅰ	各自の研究テーマに沿って、修士研究(修士論文または修士設計)を行い、それに対して担当指導教員および建築家教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。	
	建築学特別研究Ⅱ	各自の研究テーマに沿って、より高度なレベルで、修士研究(修士論文または修士設計)を行い、それに対して担当指導教員が適宜指導を行う。各自の進捗を把握するために中間発表会を適宜行い、教員および学生間で意見交換や助言を受けることで、テーマや表現の発展ができるように修士制作や論文の完成を目指す。	